

南あわじ市 平成 21 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

		整理番号	1302
事業名	南あわじ市公民館活動費		予算科目
担当部課名	教育部	生涯学習文化振興課	会計
電話	0799 - 37 - 3020		款
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	一般会計・1
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		教育費・10款
			項
			目
			社会教育費・5項
			公民館費・2目
南あわじ市総合計画 施策体系		まちづくりの柱	人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_
		まちづくりの目標	情熱と生きる喜びあふれるまち(生きがい)
		施策目標	仲間との絆を深め、情緒やセンスを磨く、芸術文化活動・スポーツ活動を盛んにする
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託
			負担金補助

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	対象(誰を・どのような状況の人に)	講座を受講しようとする市民対象	対象人数(人)
			52,410
	目的	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 教養及び文化に関する各種公民館講座を設けることにより、市民の学習への向上心を高めるとともに、市民のふれあい交流により、豊かな感性と実りある人生を見出す一助とする。	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 様々な公民館講座を用意し、市民の学習意欲に応えるものとする。受講料については、受講者から応分の負担を求めている。 絵葉書教室、三味線教室、太極拳教室、英会話教室、パソコン資格講座、園芸教室、道を楽しむ会、栄養教室、押し花教室、華道、茶道、韓国語、少年少女合唱教室、ちびっこジャズダンス等	
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 広い年齢層の参加を目指し、少年少女合唱団、パソコン教室等、多彩な内容を盛り込んでいけるものの、講座生の多くは65歳以上の高齢者である。壮年層や青年層を講座に誘うための方策として週末開催や夜間講座を増やす手段もあるが、壮年層は就業年齢であり青年層は小グループでの多様な交流が主体となっている社会構造があり一挙に解消ができない事情がある。 しかしながら、市民の35%を占める60歳以上の高齢者へ学習機会を確保する意味で公民館講座事業の必要性は十分にあると考える。	
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ()	
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 合併前はそれぞれの市で独自の講座が行われていた。 合併により、選択できる講座内容が増えたと言える。		

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

事業に対する 目標の設定	指標名	公民館活動費					指標単位
							人
	指標説明 (指標算出 方法等)	南あわじ市公民館講座の年間出席者数					
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	目標値		6,385	7,605	6,780	6,780	
	実績値		6,291	6,239			
	達成度 (%)	-	98.5	82.0	-	-	
目標値設定 の考え方	各講座の出席者が年間講座にすべて出席するとして、各講座の年間出席者数(募集人数×講座回数)						
資源配分 (インプット)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
	直接事業費 (千円)	5,952	3,650	3,234	3,135	2,697	
	公民館講座謝礼	4,530	2,589	2,877	2,790	1,992	
	需用費等	1,422	1,061	357	345	705	
	財源 (千円)						
	国						
	県						
	起債						
	その他	1,346	1,111	1,947	1,587	1,241	
	一般財源[A]	4,606	2,539	1,287	1,548	1,456	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	3,612	3,683	3,384	0	
	平均人件費(1日当り)	29.9	30.1	27.9	28.2	28.2	
	事業量1(事業に要した日数)		30	33	30		
	事業量2(事業に要した人数)		4	4	4		
年間経費([A]+[B])	4,606	6,151	4,970	4,932	1,456		
「目的」対象人数1人当り経費 (円)	87.9	117.4	94.8	94.1	27.8		
経費に関する 補足説明	財源のその他は、講座受講料である。						

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
達成度	目標達成度	%	-	98.5	82.0	-	-	
	(事業目標の達成度分析、問題点・課題などを記入。) 多くの市民の学習意欲・仲間づくりに答える意味から、必要な施策であり効果は果たしていると考えます。						自己評価 (5点評価)	4
有効性	(住民満足度の分析、問題点・課題などを記入。) 平日に行う講座が多く、参加者は高齢者がどうしても多くなる。高齢者の生きがいづくり(学習意欲と仲間づくり)の一環として、高齢者スポーツ(ゲートボールやグラウンドゴルフ等)と併せた効果が得られていると考えている。						自己評価 (5点評価)	4
	事業単価	円	87.9	117.4	94.8	94.1	27.8	
効率性	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 平成20年度は1,947千円の講座受講料収入があった。 講座維持経費のほとんどを占める講師謝礼の約2/3は、この受講料(個人負担)収入であり、妥当な負担率と考える。 費用対効果の点では、もっと、参加者を増やすことが重要であるし、出席率が年度末には落ちてくる傾向についても、改善に向けての方策を考えていくことが課題である。 なお、講座募集の統一では、チラシの新聞折込での369千円(19年度)は266千円(20年度)となり、約100千円の節約ができた。						自己評価 (5点評価)	4
	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低				
必要性	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 地区公民館活動の中でも各種のサークル活動があり、市の文化団体連絡協議会には4,000名が参加している。この数字を見る限り、市民の学習意欲は高く、市が行う公民館講座は今後も継続を必要とする。 ただ、講座・講師については、公民館運営審議会や受講者の意見を聞きながらよりベストな選択が必要である。						自己評価 (5点評価)	4
	総合評価	<p>自己評価をふまえた現状分析</p> <p>平成20年度から緑公民館、西淡公民館、三原公民館、南淡公民館で開催する各種講座について、企画・募集を一元化することにより講座の選択肢の増加、事務の効率化を図っている。</p> <p>市民の様々な学習意欲に答えるための施策として、この公民館講座は機能しており、受益者負担についての約2/3については、妥当な範囲である。</p> <p>この講座の存在が、受講者の生きがいづくりや市民交流に果たす役割は大きい。</p>						<p>評価グラフ</p>

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成22年度にできる改善・改革	平成23年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>講座内容の検討は21年度の受講者数や受講者からの意見をもとに、次年度の講座数と講座内容を検討したい。</p> <p>平成22年度も継続して取り組むとともに、講師経費の削減も図りつつ講座活動の活性化を図るため、全20講座中に新規講座を7種目投入し、幅広い年齢層の受講生を迎えられるよう取り組む。</p>	同左。
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	仮に 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 市としての公民館活動を取りやめることはできず、予算を無くした場合は、全てボランティア活動として実施していかなければならない。	